

松尾交流センター 洗心館

国内産 LVL を用いた複合公共施設

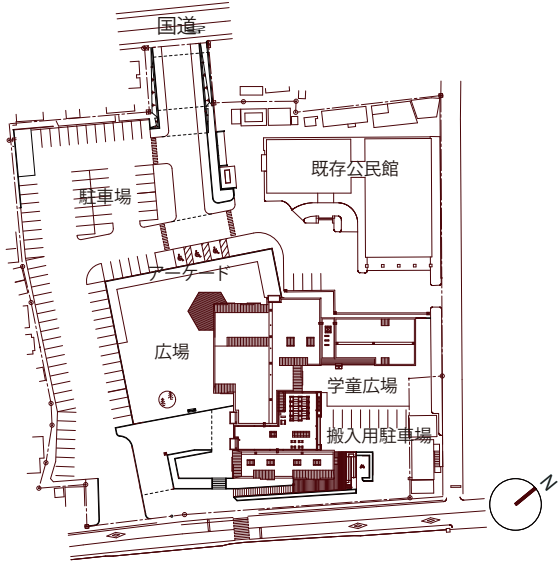
所在地：千葉県山武市松尾町松尾 40-2 外
用途：複合用途（公民館・児童福祉施設・店舗・飲食店）
構造規模：木造一部鉄骨造 地上 1 階
敷地面積：2,366.27 m²
建築面積：1,584.23 m²
延床面積：1,557.86 m²



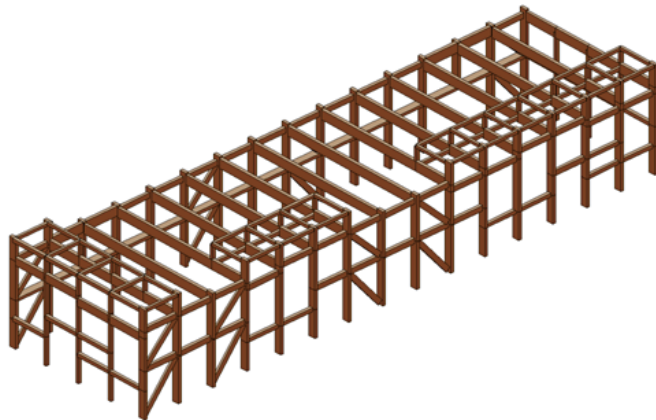
全景：リズムミカルな線で割り付けた黒い影絵のような開口の奥に、木質空間の色味が重なる。

JR 松尾駅から至近距離に位置し、公民館、学童クラブ、地産地消型の店舗の 3 つの機能で構成される複合型の地域交流拠点である。市町村合併や建物の老朽化に伴い解体された旧町役場跡地に新たな地域コミュニティの核となる施設を計画するため、3 年間の歳月をかけて市と地域住民が研究会を継続的に行って計画された。

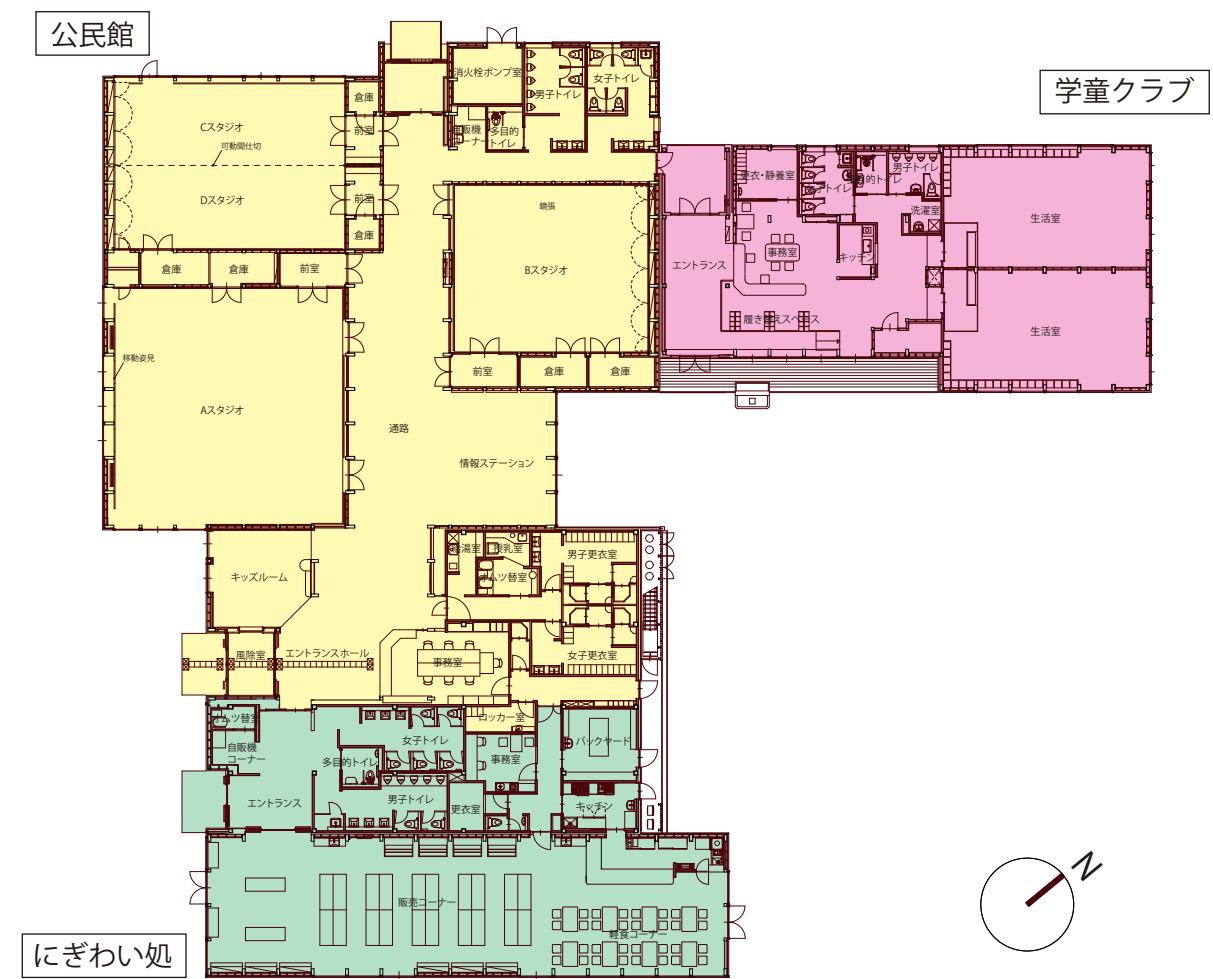
本建築の主構造は、千葉県産山武杉を過半とする国内産 LVL を使用した木質ラーメン構造である。木材を桂剥きにして圧着する LVL は、集成材には使用できない小径木や間伐材も使用することが可能である。木造・木質化が促進されている公共建築の分野において LVL の利用が普及すれば、中・大規模の建築物の建設においても、小径木や間伐材も含めた木材資源の有効活用と更なる需要拡大に繋がる。架構構成は、張間方向をラーメン架構、桁行方向をブレース架構としている。ラーメン架構は 1,820mm 毎に配置、柱・梁とも見付を 150mm に統一し、木造フレームの存在感を強調している。公民館の A スタジオにおいては、13m スパンの無柱の大空間を実現している。接合部には、異形鉄筋を用いたグルードインロッドを採用することで、接合部の多くを剛接合にすることができ、シンプルな納まりを実現している。本建築においては構造体のみならず、内装制限を受けない床や腰壁においても積極的に千葉県産山武杉を使用することで、地域に根付き、世代を超えて人々に愛される公共建築の実現を目指した。



配置図 1：2,000



架構構成図（店舗部分）



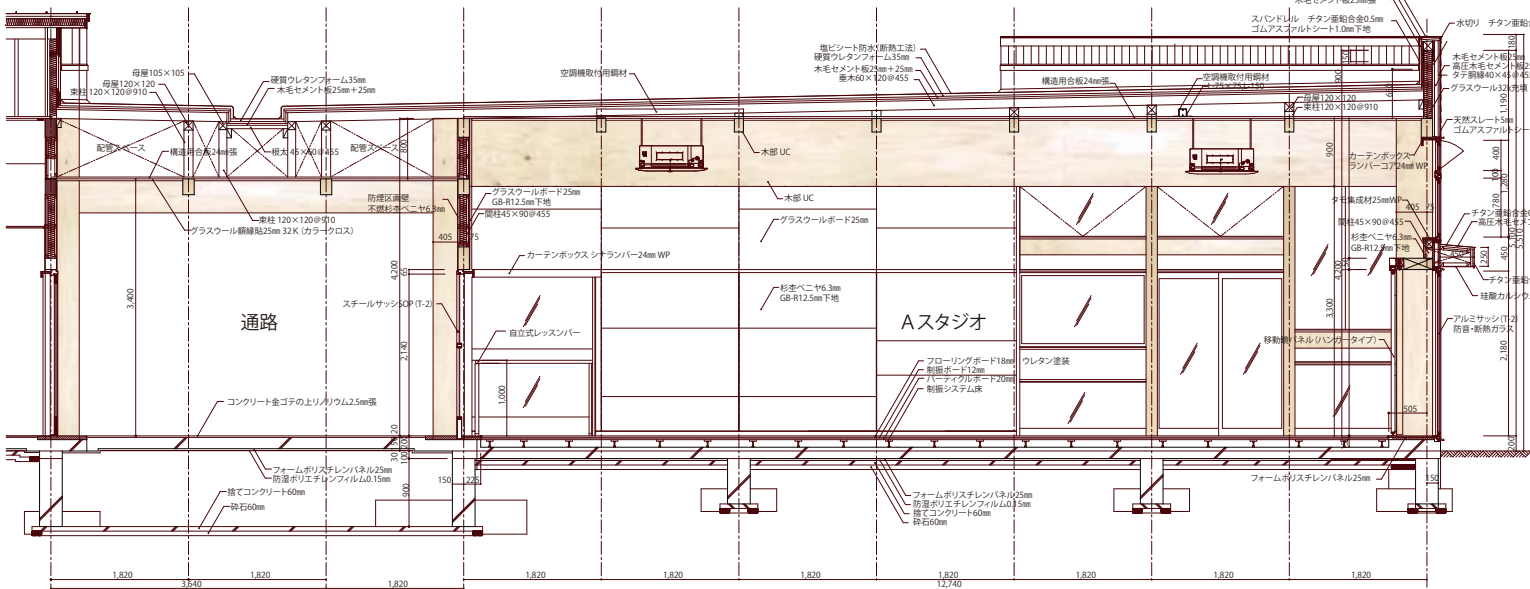
平面図 1：300



B スタジオ（公民館）：トップライトから光を落とす。 通路（公民館）：スタジオの壁面をガラス張りとし、明るさと開放感を創出。



情報ステーション（公民館）：打ち合わせや勉強など、多目的に使用可能。



短計図 1：100



A スタジオ（公民館）：通常の公民館活動に加え、ダンスをはじめとする身体活動にも対応する多目的室である。



地産地消型店舗（にぎわい処）：沿道に配置して内部の様子を透過させ、利用者を誘引する。



生活室（学童クラブ）：腰壁やフローリングにも山武杉を使用し、家庭のような温かみのある空間としている。